

授業科目 障害評価学演習

【担当教員名】		対象学年	3	対象学科	義肢
坂井 一 浩 他		開講時期	前期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【概要・一般目標：GIO】 対象者の条件に合致した義肢装具、福祉用具・機器のデザインを行えるようになるために、運動機能と障害、および日常生活の評価を理解する。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1. 義肢・装具、福祉用具・機器のデザイン検討に必要な対象者の評価について主な項目を説明できる。 2. MMTやROMなど、基本的な運動機能評価について説明し実践できる。 3. 脳卒中片麻痺や脳性まひなど、中枢神経障害に対する機能評価について説明し実践できる。 4. 関節リウマチなど装具介入頻度の高い主な疾患について、固有の評価法が説明でき、それが実践できる。 5. 切断者の機能評価について説明し、実践できる。 6. 対象者の生活様式やニーズを客観的に捉えることができる。 7. 対象者の機能障害と日常生活、およびニーズを包括的に捉え、固有の条件に適当な義肢装具、福祉用具・機器を選択できる。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	運動機能障害評価法概論			1	講義
2	運動機能障害評価法（骨関節疾患）			2, 4	講義
3	"			"	演習
4	運動機能障害評価法（末梢神経障害）			2	講義
5	"			"	演習
6	運動機能障害評価法（中枢神経障害）			3	講義
7	"			"	演習
8	切断の評価			5	講義
9	"			"	演習
10	日常生活動作の評価			6	講義
11	"			"	演習
12	ケース・スタディー			7	"
13	"			"	"
14	"			"	"
15	総括			"	プレゼンテーション会
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書					
その他の資料					
【評価方法】		【履修上の留意点】			
レポート、ケース・プレゼンテーション、筆記試験によって評価する。					